



2017年6月16日

報道関係者各位

慶應義塾

第704回三田演説会 7/5 開催
「社会の変化と刑法の変化」
井田 良 慶應義塾大学名誉教授・中央大学大学院法務研究科教授

三田演説会は慶應義塾で1874（明治7）年に始まり、2015年7月に第700回を数えました。7月5日（水）に第704回三田演説会を開催し、「社会の変化と刑法の変化」と題して井田 良 慶應義塾大学名誉教授・中央大学大学院法務研究科教授が講演します。

つきましては、本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をよろしくお願いいたします。

1. 開催概要

(1) 日 時 : 2017年7月5日（水） 14時45分～16時15分（開場14時00分）

(2) 講演者 : 井田 良（いだ まこと）

慶應義塾大学名誉教授・中央大学大学院法務研究科教授

(3) 演 題 : 「社会の変化と刑法の変化」

刑法は、世紀の変わり目に差しかかる頃から、「変革の時代」と呼ぶにふさわしい激動期を迎えるに至りました。刑法もまた、社会と時代環境の変化に対応して変わらなければなりません。しかし、たとえ社会が変わろうと動かしてはならないものもまた存在します。刑法における「変わるべきものと動かしてはならないもの」について論じます。

(4) 会 場 : 慶應義塾大学（三田キャンパス）三田演説館

東京都港区三田 2-15-45

(5) 交 通 : JR 山手線・京浜東北線 田町駅下車（徒歩約8分）

都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車（徒歩約7分）

都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車（徒歩約8分）

<https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html>

(6) 参 加 : 入場無料・申込不要（定員約140名）

※座席は先着順です。満席の場合は立見または入場を制限させていただく可能性がございますので、ご了承ください。

2. 井田 良 君 プロフィール

〔略 歴〕

1956 年生まれ。1978 年慶應義塾大学法学部法律学科卒業。1980 年大学院法学研究科修士課程修了。1984 年同博士課程単位取得退学。1983 年慶應義塾大学法学部助手。その後、専任講師、助教授を経て1995 年法学部教授。2004 年大学院法務研究科教授。2004 年から 2006 年まで慶應義塾志木高等学校校長。2009 年から 2013 年まで慶應義塾常任理事。2016 年から慶應義塾大学名誉教授、中央大学大学院法務研究科教授。学外における役職として、日本刑法学会常務理事(理事長代行)、国際刑法学会理事、司法研修所参与、フンボルト財団学術参与など。専門領域「刑法、医事法」。法学博士(ケルン大学)。

〔受 賞〕

2006 年 シーボルト賞(フンボルト財団)
2009 年 名誉法学博士号(ザールラント大学)、ザイボルト賞(ドイツ研究振興財団)
2012 年 名誉法学博士号(エアランゲン大学)
2015 年 ドイツ連邦共和国功勞勲章功勞十字小綬章

〔著 書〕

『刑法総論の理論構造』(成文堂、2005 年)
『変革の時代における理論刑法学』(慶應義塾大学出版会、2007 年)
『講義刑法学・総論』(有斐閣、2008 年)
『入門刑法学・総論』(有斐閣、2013 年)
『入門刑法学・各論』(有斐閣、2013 年)
『講義刑法学・各論』(有斐閣、2016 年)
『基礎から学ぶ刑事法 [第 6 版]』(有斐閣、2017 年)
ほか

3. 三田演説会について

三田演説会は、福澤諭吉を中心に小幡篤次郎、小泉信吉など 10 余人の義塾の先進者たちによって、演説、討論の研究錬磨の場として 1874 (明治 7) 年 6 月 27 日に発足し、翌年、日本最初の演説会堂である三田演説館が完成しました。スタイルや話題は変わっても、福澤諭吉の精神は時を超えて三田演説会に脈々と受け継がれています。三田演説館は 1967 (昭和 42) 年、国の重要文化財に指定されています。

福澤は、「演説とは英語にて『スピーチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝るの法なり」(『学問のすゝめ』十二編) と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。

また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。

旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

* 本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。

* ご取材に際しては、事前に下記までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室 竹内

TEL 03-5427-1541

FAX 03-5441-7640

Email m-koho@adst.keio.ac.jp <http://www.keio.ac.jp/>